

# 委託事業実施内容報告書

## 平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【退職教員を対象とした日本語指導者養成】

受託団体名 兵庫日本語ボランティアネットワーク

#### 1 事業の趣旨・目的

兵庫県には約 10 万 3000 人の外国人が居住している。そのうちの 4 割が新渡来者であり、日本で生活するために彼らの多くが、居住地域、勤務地域で日本語学習を望んでいる。その要望に応えるために、県内には約 70 箇所の日本語教室がある。どの教室も恒常的な学習支援者不足である。また、彼らに連れてこられた子どもたちも増加の一途をたどっている。子どもたちへの支援はどの教室も経験が浅く、試行錯誤で支援に当たっているのが現状である。

兵庫日本語ボランティアネットワークは県下の行政機関(国際関係課、教育委員会)国際交流協会、ひょうご日本語ネットと密接な連携関係を持っているので、人的ネットワークを生かすことができる。また、兵庫日本語ボランティアネットワークは日本語学習者のニーズに応えるための日本語学習支援者養成講座を開催してきた実績がある。この利点を生かし、「退職教員を対象とした日本語指導者養成講座」を行うことができる。

兵庫県では小、中、高等学校の教員が約 4 万人在職し、毎年約 1000～1200 人が退職する。退職者の多くが、退職後、地域社会で活動を望んでいるが、成人を対象とした社会教育の経験がある人はほとんどいない。ましてや日本語教育のノー・ハウを身につけた人はほとんどいない。

ここでは、彼らの教育経験を生かしながら、地域の「外国人」の日本語学習支援活動に必要な態度、知識、スキルを新たに身につけ、地域の日本語学習支援教室に通う成人や学校に在籍する日本語学習支援を必要とする児童生徒の支援者として活動できるように以下を目的とする。

- ① 講座修了者(退職教員)が兵庫県内各地の日本語学習支援教室や学校で活動する機会とする。
- ② 講座修了者(退職教員)が自分の経験を生かし、外国から来た子どもへの日本語学習、母語学習、科学学習支援に参加できるようにする。

#### 2 企画委員会の開催について

##### 【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
2008 年 7 月 29 日	兵庫国際 プラザ	15 名	本事業の企画案の承認	提案及承認
2008 年 9 月 30 日	兵庫国際 プラザ	15 名	講座内容・講師の承認	提案及承認
2008 年 12 月 16 日	兵庫国際 プラザ	15 名	講座中間報告	
2009 年	兵庫国際	15 名	講座修了の報告	承認

2月24日	プラザ			
-------	-----	--	--	--

【写真】



企画委員会 2009.2.24



講座風景(ワークショップ)2008.12.20

### 3 養成講座の内容について

(1) 養成講座名:日本語教育指導者養成講座

(2) 養成講座の目標:

①修了後、兵庫県内各地の日本語学習支援教室や学校で活動できるようにする。

②修了後、自分の教職経験を生かし、外国から来た子どもへの日本語学習、母語学習、教科学習支援に参加できるようにする。

(2) 受講者の総数 35人/回

(3) 開催時間数(回数)3時間 (13回)

(4) 参加対象者の要件:教職経験者で退職者および予定者

(5) 受講者の募集方法

①兵庫日本語ボランティアネットワーク加盟のグループ会員へ郵送(メール便)案内

②神戸新聞により案内

③兵庫県教育委員会より小中高校へ電子メールで案内

\* 募集チラシは巻末添付

(7) 研修会場:兵庫県立のじぎく会館(主会場)・兵庫県立ひょうご女性交流館・神戸市立教育会館

(8) 使用した教材・リソース:各講師の手作りレジュメ

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
2008. 10. 18	①オリエンテーション ②～自己紹介（異文化ワークショップ）～	兵庫日本語ボランティアネットワーク 代表 長嶋 昭親 関西国際センター 非常勤講師 山田 久美子	26 人
2008. 10. 25	①生活者としての「外国人」の状況と諸問題 ②インドシナ難民とその家族について ③日系労働者とその子どもたちについて ④中国帰国者とその家族について	RINK 理事 木村 雄二 NGO ベトナム in Kobe 代表 ハー・ティ・タンガー (特)篠山国際理解センター 副代表 矢持 ベロニカ 美知子 中国帰国者日本語支援グループ 相談員 根津 京子	23 人
2008. 11. 1	①生活者としての「外国人」への日本語学習支援について～学校教育との違い～ ②第二言語教育の理念と理論～国語教育、英語教育と日本語教育の違い～	兵庫日本語ボランティアネットワーク 運営委員 永安 龍三郎 大阪大学大学院文学部 教授 青木 直子	23 人
2008. 11. 8	「外国」から来た子ども支援の状況と課題－1 ①「外国」から来た子ども支援の課題について ②.日本語学習支援活動について	広島県内小学校・高校 日本語教師 二口 とみゑ 兵庫県教育委員会子ども多文化共生サポーター 藤戸 直美	28 人
2008. 11. 15	異文化体験学習	コミュニケーション学院 学院長 奥田 純子	27 人
2008. 11. 22	「外国」から来た子ども支援の実践報告(1)	① 神戸市立本山第二小学校 教諭 村山 勇 ② (NPO)神戸外国人定住センター 支援員濱野 徳子 ③姫路城東補習教室 支援員 角田一訓 ④神戸市立こうべ小学校講師 森岡 良子 ⑤こうべ子どもにこにこ会 支援員 川崎 玲子 ⑥兵庫日本語ボランティアネットワーク 代表 長嶋 昭親	26 人

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
2008. 11. 30	「外国」から来た子ども支援 の実践報告(2)	愛知県立愛知教育大学大学院 研究補佐員 澤田 久美子 研究補佐員 宮崎 宏美 研究補佐員 後藤 佳子	23 人
2008. 12. 6	日本語支援法ー 1. 自己学習、自己学習支援に ついて1～第二言語教育の 理念と理論～	大阪大学大学院文学部 教授 青木 直子	26 人
2008. 12. 13	日本語支援法ー 2 自己学習、自己学習支援につ いて2～ポートフォリオ作 成について	北九州市立大学 準教授 小林 浩明	27 人
2008. 12. 20	日本語支援法ー 3 学習者のニーズに応えるた めの戦略ー 1 実践演習ー 1	港島日本語教室 支援員 尾形 文	28 人
2009. 1. 10	日本語支援法ー 4 学習者のニーズに応えるた めの戦略ー 2 実践演習ー 2	(NPO)神戸外国人定住センター 支援員 高橋 博子 兵庫県教育委員会 子ども多文化共生サポーター 許 智 仁	25 人
2008. 1. 17	「外国」から来た子ども支援 の状況と課題ー 2 他地域での先見実践につ いて	神奈川県大和市立小学校教員 柿本 隆夫 スタンド バイ ミー 支援員 グエン ゴック パオトラン 支援員 宮脇 英理 支援員 チャン ソワン ナリット 支援員 劉 麗鳳 他3名	25 人
2008. 1. 24	講座を受けて考えたこと、 「これからの行動計画につ いて」 ①学校での支援活動につ いて ②県内の地域日本語教室紹 介 閉校式	子ども多文化共生センター 指導主事 伊井 直明 兵庫日本語ボランティアネットワーク 代表 長嶋 昭親	25 人

(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート:

アンケート結果(実施日 2009 年 1 月 24 日)修了者:30 名 回答者 26 名(4 名欠席)

1. この講座をどこで知りましたか。

- a. 学校で 12 b.兵庫日本語ボランティアネットワークの案内で 0  
c. 知人から 2 d. 地域の日本語教室で 0 e.神戸新聞で 11 f.その他(インターネット  
で) 1

2. 講座について

(1) 内容について

- a. よかった 16 b. まあまあよかった 7 c. ふつう 2  
d. あまりよくなかった 0 e. 全然よくなかった 0 無記入 1

【理由・意見】

- ・ 教材、実際に活動している人の話、神奈川県の高校生大学生の話など、ここでなければ学べないことが多くあった。
- ・ 日本語指導のスキルだけでなく、生活者としての外国人の状況と課題など幅広く学ぶことができた。
- ・ 現在ボランティアで日本語指導をしているので、期待としては実際の指導法をもっと深めたかった。その意味で少々不満。
- ・ 児童支援の実際についての具体的な学習方法についての内容があればよかった。
- ・ 多方面の講師のお話が聞けたし、実際に支援しているかたや支援を受けた側の意見を聞くことができた。とても実りの多いものであった。
- ・ 以前から興味は持っていましたが、自分だけではなかなか視野が広がっていきませんでした。様々な現場の情報に触れることができ、収穫大でした。ありがとうございました。
- ・ 講師の方が多彩で、そのたびに「私にもできるだろうか」「できそうにない」「できることをして何か役に立ちたい」などと心が揺れました。でもボランティアとして学習者と対等で向き合うことが大切なんだなあということが学ぶことができました。
- ・ 内容も広範囲に渡りましたが、実際に活動されている方々にたくさんお会いでき、お話を聞いたのが良かったです。関連情報としての資料も多く入門としてとても行き届いていたと思います。
- ・ 内容のいろはがおぼろげながらも分かってきた。
- ・ 参加させて頂いて今まで知らないことが分かり勉強になりました。
- ・ 在日の外国人の人数、国の数をはじめ、実際に日本語支援に携わっている先生方のお話で内情など具体的なことを教えていただきとても勉強になりました。
- ・ 授業の方法が一方的なものが多く、学習者参加型のものが少なかった。何となく日本語教育指導者のことが分かったが、何か足りないのでは・とも感じる。
- ・ 生活者としての外国人の抱える現状の外濠が少し見えたと思う。
- ・ 初めて聞く内容で非常に興味深かった。
- ・ 講座によってばらつきがありました。やはりワークショップ etc.参加型の講座が良かったです。
- ・ 講義と実践が混ざっているプログラムとても楽しかったです。

(2) 期間(3 時間×13 回)について

- a. 短かった 4 b. ちょうどよかった 18 b. ふつう 3 c. 長すぎる 1

### 【理由・意見】

- ・ 個人的なことだが、自営業で朝の7時から夕方6時まで時間が縛られ、休みは土曜日のみなので午後から長期に及んでは正直きつかった。
- ・ できれば午前中の実施が良い。遠方の方が集まりにくければ2時間にして回数を増やしても良い。
- ・ 寒さに向かったの講座で全部出席できなかつたことが残念でした。
- ・ 最初は13回も！大変！と思ったけれど、こうして終わりを迎えてみると1回1日がとても大切だったなあと思います。またいろいろな立場の方のお話や実践をお聞きすることができ、あるときはくじけそうになる気持ちをまた立て直し自分のできることをしよう!と思う気持ちになりました。
- ・ 13:30～16:30の時間もちょうど良かったです。
- ・ 毎週土曜日はきついこともありましたが”出勤日”で全部出席できました。このぐらいの期間でよいのではないのでしょうか。
- ・ 約3ヶ月、はじめは長いと思いましたが、終わってみればちょうど良かったようにおもいます。
- ・ 回数がもう少し増えて何か補える内容があるのではと感じる。
- ・ 2回欠席しましたが、土曜の午後の時間帯が私にとってよかった。
- ・ 多岐に渡りありがとうございました。
- ・ 月～金曜日の夜間が良かった。
- ・ いろいろな講師の話が聞けて全く無知だった私にとってはちょうど良かった。
- ・ まだまだあってもよかったと思います。

### (2) 講師・スタッフについて

- a. よかった 14 b. まあまあよかった 10 c. ふつう 2  
d. あまりよくなかった 1 e. 全然よくなかった 0 (1名 複数回答)

### 【理由・意見】

- ・ 一部学者の研究テーマとしての講義で実態にそぐわないものがあった。
- ・ どなたも自分の体験に基づいて具体的に話が聞けたのでよかった。
- ・ 実際に支援活動をしている話が聞けてよかった。支援を受けている側の話もとても参考になった。
- ・ いろいろ吟味した上で講師を選ばれたようでとても面白い興味深い経験ができた。
- ・ 青木直子 T はやはり学び合いを共に作るという講座で一番楽しかったです。上の欄にも書きましたが、いろいろの立場の方のお話が聞けたことが良かった。
- ・ 研究者、実践者、生徒と、様々な立場の方がいたのが良かった。
- ・ 来日外国人の要求すること望むことが1月17日の会(横浜)でつかみにくくなった感がある。
- ・ どの先生方も分かりやすく教えてくれて頂きよかった。
- ・ 熱心にひたむきに取り組んでおられる先生方の気持ちが伝わってきました。
- ・ (1)にもつながるが参加型の授業をできる講師を増やしてほしい。
- ・ ワークショップ形式が多くいろいろの情報も多くとても有意義に感じた。
- ・ 実践を伴う活動内容だったことがよかった。
- ・ 分かりやすく教えていただけたと思います。ありがとうございました。
- ・ 初めて聞く話も多く、いろいろな講師の話はいい勉強になった。
- ・ これも講師によってばらつきがありました。木村先生、奥田先生、愛知教育大学の方々、小林先生の講座が良かったです。スタッフの方は皆さんとても感じが良かったです。

- ・ 分野的に見ても納得のいく内容でした。
- ・ 優秀な方が多く、講義内容が深かった。

### 3. 講座を受けて

(1) 日本語学習を必要とする「外国」人の事情が

- a. よくわかった 18   b. あまあわかった 8   c. ふつう 0  
d. あまりわからなかった 0   e. 全然分からなかった 0

#### 【理由・意見】

- ・ 以前勤務していた学校に連絡を取り、親へのボランティアを申し出たが、困っている様子でもなくそのままになっている。
- ・ よく分かるようにしていただいたと思いますが、外国の方の事情は私がわかったと思っているのは氷山の一角だと思います。
- ・ 「わかった」というのはおこがましいと思うのですが、今まで知らなかった「外国」人の事情をいろいろ紹介していただき、これから目を開き、よく知っていかなければならないと思いました。
- ・ 特に支援を受けている側の方の話が貴重でした。意識のギャップもよく分かりました。
- ・ ボランティアを軽い気持ちでやってみようと思い講習を受けたが少し不安を感じるようになった。
- ・ 人として共同しなければ・・・。
- ・ 本を読んだり、新聞で知ったりの程度からずいぶん知識理解が増えましたが、まだ足りないのではとも感じます。
- ・ 日本に住む外国人が不安・困難な状況で生活していることがよく分かった。
- ・ 一部理解できたと思います。問題意識が以前よりは持てた程度かもしれません。
- ・ 「日本語支援」のみならず、家庭内で「母語教育」も考えなければならぬとの事情を聞かされて“外国人支援”の奥深さ(社会生活、家庭生活、親子関係)を痛感した。

(2) 日本語学習支援法が

- a. よくわかった 2   b. まあまあわかった 16   c. ふつう 4  
d. あまりわからなかった 4   e. 全然分からなかった 0

#### 【理由・意見】

- ・ まだまだ、百戦錬磨。実際やって壁にぶつからないと分からないことが多いと思う。
- ・ 学習支援について具体的な話が少なく、またケースによって異なるので実際支援する時にはまだまだ工夫する点も多いと思う。
- ・ 学習者にあわせて教材を選ばないといけない。
- ・ これから勉強していくことが多いと思います。
- ・ 日本語しか話せなくてもできることがある。というのは私のような経験のない、保持言語もないものにとっては「わたしにもできることがあるかも・・・」という希望が持てます。
- ・ 個別対応が大事なのはよく分かりますが、初心者としては「なかなか良かった教え方」を紹介していただけると手がかりになるかもしれません。
- ・ 実際に活動しないと分からないと思う。
- ・ 自分が実際実施してみなければ・・・不安です。

- ・ 実際自分が現場で経験して分かっていくのだと思いますが、自己決定型学習法が印象に残っています。
- ・ 具体的にどういう風にするのかがまだ分かっていないと思う。
- ・ 分かったつもりなのかも。実際にアプローチするのは不安があった。
- ・ 支援を要する人の状況が一人一人違い、ケースバイケースで創意工夫しながら取り組む必要があり、サポーターの責任に帰するところ大であると思う。
- ・ 全く無知だったが、いろんな話が聞くことができたから。

(3) 「外国」から来た児童生徒の事情が

- a. よくわかった 6   b. まあまあわかった 17   c. ふつう 3  
d. あまりわからなかった 0   e. 全然分からなかった 0

【理由・意見】

- ・ 身近にいないのであまり考えようとしていないが、講座で多くの外国人が来日しているか理解できた。同時にどうあるべきか自分の考えが整理できないでいる。
- ・ 自分の都合より家族の都合なので日本語学習する目的を納得させることが大切。
- ・ いろんな事情で来ていることは分かったように思う。
- ・ 現場の実践している方の話を多く聞けたので。
- ・ 外国から来られた人々に日本人としてしなければならないことが明確にされましたが、それを行政として取り組むことの大切さを痛切に感じています。
- ・ 「すたんどばいみー」のメンバー8人の方の話(非行・高校進学の問題など)や青木先生の発言などで実感しましたが、よく分かったというにはおこがましいとおもいますので・・・。
- ・ “Stand By Me” の高校生大学生の実際の体験を聞いたことが大きかったです。ああいう企画がもう少しあってもいいと思います。
- ・ 漠然としたものはあったが、自分の知らないような実態がまだまだあるということが見えてきた。
- ・ 今まではただ漠然と想像していただけだった、具体的な話を聞かせてもらえたから。

(4) 「外国」から来た児童生徒への支援法が

- a. よくわかった 3   b. まあまあわかった 14   c. ふつう 6  
d. あまりわからなかった 3   e. 全然分からなかった 0

【理由・意見】

- ・ 自分の生活状況から考えると支援というものが限られているので具体的に動けない。
- ・ マンツーマンの指導が大事だということがよく分かった。
- ・ いろいろな講師の先生や長嶋先生のお話でよく分かったつもりになっていますが、きっと実際支援するとなるとよく分かったとは言えないのではないかな。いろいろ生徒さんによって手探りで始まるのだと思う。
- ・ 実際活動をし始めないことには実情がよく分からないだろうと思います。微力ながら前進あるのみです。
- ・ 日常会話の日本語だけでなく学習言語の習得というのが難しいことだと認識しました。ではどうすればよいのか。というところで学習者の母語や母国の文化を大切にしながら日本の学校での学習言語をいかに習得させるかということは方法が見えてきません。



- ・ 問題、難しさ、複雑さが分かっただけに実際の支援法となると不安を感じますがそれくらいの気持ちがちょうどいいのかもしれません。
- ・ 日本語教育の学習もしてから支援したほうが良いのかなとも思いましたが教師ならそれは必要ないのか(?)どうか。
- ・ 具体的にどういう風にするのかがまだつかめていない。
- ・ 外国人といえども「児童生徒」の支援法は、日本人も同じではないかと感じた。
- ・ 子ども支援に関しては難しい。
- ・ 特に神奈川県から来た子どもたちの話と質疑応答を聞き分からなくなった。
- ・ 講座で具体的な話は聞かせてもらったが、今は現場を全く知らないから。
- ・ この講座で学んだことやお友達になった方々と今後も交流会や勉強会の実施により末長くお付き合いしたく考えています。研修会、交流会を是非定期的に行ってください。

### 3. これからのこと

- |                           |    |
|---------------------------|----|
| a. 学校や地域で日本語学習支援に関わっていきたい | 13 |
| b. 今は、関われないが、将来関わりたい      | 9  |
| c. わからない                  | 3  |
| d. さらに研修を受けて考える           | 5  |
| e. 関わりたくない                | 0  |

(複数回答 4人)

#### 【これからのこと及び全体を通じてのご感想・ご意見】

- ・ 学校ではフィリピン人(中学生)の多文化共生サポーターがどうしてこんなに時間数が少ないのかと思っていたが事情がよく分かりましたと共に問題が山積みでため息が出ます。身近にできることからお手伝いをしたいと思います。
- ・ 孫の誕生予定や自分の健康のこともあり一途に日本語学習支援を推し進めるとは言えないが、今の日本語学習支援を続けながら今後も考えていきたい。
- ・ 今後勉強する機会があれば勉強しながら支援活動に参加したい。
- ・ 今は時間講師と地域のボランティアをしていてウイークデーに関わっていくことができませんが、できる範囲で協力をしたいと思います。
- ・ 気持ちとしてはaに近いです。でも、現在の自分の力で何ができるのかな?とったりそれでも教職の経験を生かして何か手助けできるのならお役に立ちたいと思います。せっかく講座を受けることができたのだから。よき先輩に導かれていつか(学校や地域での日本語学習支援)ができたらいいなと思っています。
- ・ これからどのような活動ができるのかわかりませんが、現状について多くのことを教えていただき良かったです。これからの課題について考えさせられました。子どもたちの支援に当たっては教育的視点が大変重要であると思いました。
- ・ 活動欲はあります。実際に中へ入らないといろいろなことが分からないと思う。
- ・ やはり資格(日本語)が必要かなと考えている。
- ・ 退職してからボランティア参加をどのような形でできるかわかりませんが、何らかの形でやりたいと思います。
- ・ ありがとうございます。

- ・異文化を実感するための「バルンバ人」を理解しようとする授業が印象に残っています。異文化と言うものが実感できました。自宅の近くの神戸外大でボランティアができればと考えています。
- ・自分ができるのか否かわからないが、やってみたい気もする。マンツーマンである場合がほとんどのこと。一度見学してやってみるのもいいのかなあ。だがあまり抱え込みすぎてもだめだし難しい気もする。でもいい加減な気持ちでやるのは相手に足してとても失礼な気もするし……。迷い始めているのが事実。
- ・退職までの1年間は土か日のどちらかにやってみたいです。(ポチポチという感じで)。退職後はどんどん関わりたいです。
- ・継続的にステップアップを目標にした研修をお願いしたい。
- ・研修を受けるほど、不安が起きますが実践していきたい。
- ・地域や社会がこれからもっと目を向け、取り組んでいかないといけないことを実感しました。しかも猶予のないものでもあると思います。今障害者スポーツ福祉に関わっています。バランスを取れるようにして、取り組んでいきたいと思います。
- ・参加者の意欲を高めるような工夫と配慮が必要。逆の面もあったかも……。ごくろうさまでした。
- ・はじめはaであったが、今はc.d.である。
- ・いい勉強させていただきました。“支援のむずかしさ”を感じています。

## ② 実施主体からの研修内容結果評価

- ・参加者はとても積極的にワークショップなどに参加し、教職経験に基づいた意見が多かった。
- ・研修結果を地域や学校に持ち帰り、身近なところにいる「外国」人や子どもたちの状況を知り、できるところから支援ができるのではないかと確信できる。

## ③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・兵庫県こども多文化共生センターのボランティア登録をし、学校での日本語学習支援・教科学習支援に当たる。

・兵庫日本語ボランティアネットワーク内の地域日本語教室で日本語学習支援に当たる。

### (11) 事業の成果

#### ①他事業との連携および研修後の人材活用

ア. 平成21年度行政NPO協働事業「兵庫県内の企業等で働く外国人労働者およびその家族への日本語学習支援システムおよび生活支援システムの構築(予定)」でモデル日本語教室設置の予定なので、できれば、支援員として活動してもらおう。

イ. 平成21年度パートナーシップ助成事業(神戸市)でのプレスクール設置(予定)で学習支援に当たってもらおう。

### (12) 今後の課題

- ・来年度(H. 21年度)も是非続けていきたい。
- ・修了生の会(メーリングリスト)を作ったこともあり、情報交換を密にし、できればステップアップ講座を開催していきたい。

# 日本語教育指導者養成講座

## 受講生募集案内

～あなたの教職経験を多文化共生社会創生に役立ててみませんか!!～

**主催:**兵庫日本語ボランティアネットワーク

**後援:**兵庫県・神戸市・兵庫県教育委員会・神戸市教育委員会(予定)

**企画委員会:**兵庫県産業労働部観光国際局国際交流課・神戸市国際文化観光局国際推進室国際交流課・神戸市教育委員会・神戸大学留学生センター水野マリ子教授・大阪大学大学院文学部教授 青木直子教授

・兵庫県日本語ネット・(財)アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部・神戸日本語教育協議会・兵庫県日本語教師

兵庫県には10万3千人の外国人が在住し、その4割以上が新渡来者(ニューカマー)であり、兵庫県各地に点在しています。彼らや彼らの子どもたちの多くが日本語学習や学習支援を望んでいます。県内には約70箇所の地域日本語教室がありますが、ほとんどの教室が支援者不足の状態です。

教職をリタイアされた、あるいはリタイアを予定されているみなさん。あなたのキャリアを活用して、「外国」から来た人たちへの日本語学習支援や子どもたちへの学習支援活動を始めませんか。

本講座は、教職経験のある方たちが、「外国人」や彼らの子どもたちが地域社会に参加することをアシストするための講座です。講座修了後地域日本語教室などの活動場所を紹介します。

### 講座日程と内容(若干変更になるかもしれません)

NO	月/日	内容	NO	月/日	内容
1	10/18 (土)	オリエンテーション 自己開発ワークショップ—1	8	12/6 (土)	日本語支援の方法—1 第2言語教育の理念と概論 戦略—1
2	10/25 (土)	生活者としての「外国人」の状況と 諸問題(概論)	9	12/13 (土)	日本語支援の方法—2 自己学習計画支援・ポートフォリオ作成 について
3	11/1 (土)	第2言語教育と理論 国語教育、英語教育との違い	10	12/20 (土)	日本語支援の方法—3 学習者のニーズに応えるための戦略(1)
4	11/8 (土)	外国から来た子どもたちの現状と課 題—1 学習支援活動と母語教育	11	1/10 (土)	日本語支援の方法—4 学習者のニーズに応えるための戦略(2)
5	11/15 (土)	異文化体験学習 自己開発ワークショップ—2	12	1/17 (土)	外国から来た子どもたちの現状と課題—2 先進地域の活動報告
6	11/22 (土)	外国から来た子どもたちの現状と課 題—2 学習支援活動の実践	13	1/24 (土)	今後の支援活動について 県下の日本語教室紹介 閉講式
7	11/30 (日)	外国から来た子どもたちの現状と課 題—3 JSLの実践と評価について			

開催日時: 2008年10月18日～2009年1月24日(毎土曜日/うち1日だけ日曜日)13:30～16:30

開催場所: のじぎく会館(主会場) JR・阪神元町西口徒歩15分 地下鉄県庁前徒歩10分

定員: 30名(申込者多数の場合、抽選にて参加者を決定します)。

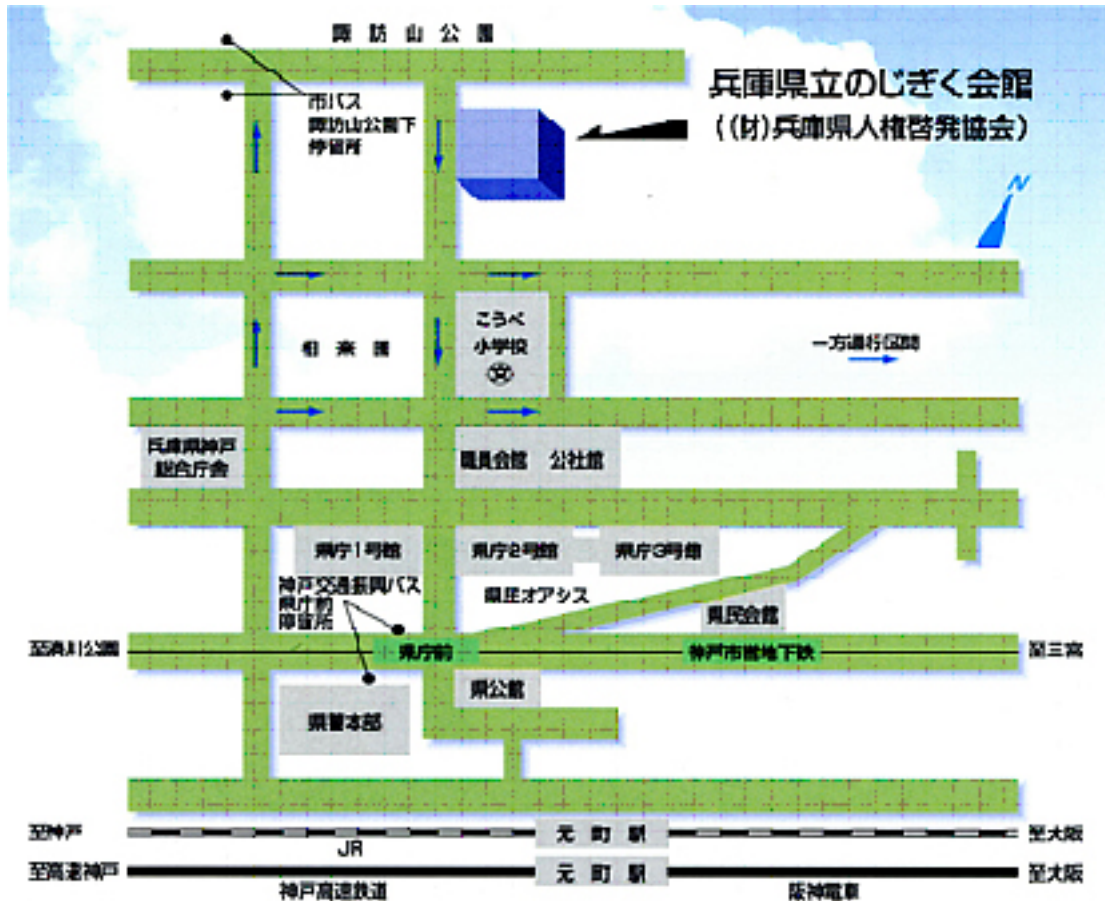
受講料: 無料

申し込み締め切り: 2008年10月3日(金)

申し込み方法: FAX:078-752-8415 かEmail: [buadu406@hi-net.zaq.ne.jp](mailto:buadu406@hi-net.zaq.ne.jp) 裏面の申込用紙にご記入の上申し込みください。

### 開催場所

のじぎく会館(主会場) JR・阪神元町西口徒歩15分 地下鉄県庁前徒歩10分



### 日本語学習支援者養成講座申込書

お名前:

お勤めされていた学校: ( ) 小学校・中学校・高等学校

専門教科: ( ) 科 教職年数: ( ) 年

ご住所: 〒

お電話 Email:

\* 個人情報については、この講座以外の目的で使用いたしません。